

◆ 2020 年度第 1 回 アジア研究所主催学術講演会

ポストコロナ禍のクルーズ客船 ～「ダイヤモンド・プリンセス」における新型コロナウイルス禍の検証と 持続可能なクルーズビジネス を探る～

講 師: 池田良穂 氏

(本学教養部客員教授、大阪府立大学名誉教授、クルーズ & フェリー学会事務局長)

日 時: 2020 年 7 月 11 日(土) 15 時 00 分～17 時 00 分

場 所: オンライン(Zoom)での開催 (どなたでもご自宅から参加いただけます)

参加希望の方は大阪経済法科大学・研究所事務室 kenkyu@keiho-u.ac.jp までご連絡ください。参加者に ZOOM ミーティング URL をメールで送付します。

概 要: 2019 年末に中国武漢から発生した新型コロナウイルスの感染は全世界に広がっている。日本では、2020 年 2 月に最初の感染拡大が日本発着のクルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」から始まったこともあり、クルーズという観光形態が新型感染症に弱いというイメージが定着してしまった。

しかし、詳細に検証してみると、「ダイヤモンド・プリンセス」の事例は、日本における新型コロナウイルスに対する水際対策としては大成功事例であり、その後の国内での感染防止にも多大な貢献をした事がわかってきた。こうした状況を受け、世界各地でクルーズ客船が隔離のための病院船として活用されており、日本政府も専用の病院船の建造を計画している。

本講演では、「ダイヤモンド・プリンセス」のコロナ禍の検証、クルーズ客船の換気等のハード特性と生活維持のためのソフト、病院船機能のあり方等について述べるとともに、ポストコロナのクルーズ観光について展望する。



(大阪港に停泊するダイヤモンド・プリンセス 2017 年池田良穂撮影)

続いて、新型コロナ関連の講演会を下記のように、いずれもオンラインで開催予定です。

◆ 第 2 回 アジア研究所主催学術講演会

日 時:2020 年 7 月 25 日(土) 15 時 30 分～17 時 30 分

場 所:オンラインでの開催

テーマ:新型コロナ対策を日本の感染症対策の歴史から読み解く

講演者:高鳥毛敏雄 氏(関西大学社会安全学部・社会安全研究科教授)

概 要:新しい感染症が登場した時には既存の医学では対応できない。近代社会が直面した最大のパンデミックはコレラであった。コレラは 19 世紀にイギリスで公衆衛生制度を誕生させただけでなく、微生物学、免疫学、薬学という 20 世紀の医学を進展させた。近代日本が最初に直面した感染症もコレラであった。しかし、日本の最大の感染症はその後に国民病となった結核であった。このため欧米諸国と日本の公衆衛生制度の基本的な違いが生み出されている。

また、1990 年代に黒船来航に匹敵する感染症行政を揺るがす大事件が起こっている。そこに来襲したのが新型コロナである。日本のコロナ対策が不可解に見えるのは日本の公衆衛生体制の変節店で起こったものだからである。この点を解説し、議論したい。

◆ 第 3 回 アジア研究所主催学術講演会

日 時:2020 年 9 月 5 日(土) 15 時 00 分～17 時 00 分

場 所:オンラインでの開催

テーマ:新型コロナウイルス感染症と高齢者

講演者:李雲柱 氏(本学 21 世紀社会総合研究センター客員教授、イークリニック院長)

概 要:新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は中国武漢で発症し、2020 年 1 月 11 日に初の死者が発表されてから急速パンデミックが拡がった。

2020 年 6 月現在、COVID-19 の累計感染者は 220 ヶ国・地域で 900 万人を突破し、死者は 47 万人を上回る。特に高齢者の死亡率が高く、加齢は重症化しやすい危険因子である。高齢者は身体的衰えで筋肉の低下が起こりやすい。認知・心理的衰えで認知機能の低下やうつ状態にはまりやすい。そして、社会的な衰えで人とのつながりの減少が問題である。ここでは COVID-19 に関連した治療と高齢者のフレイル予防について述べる。